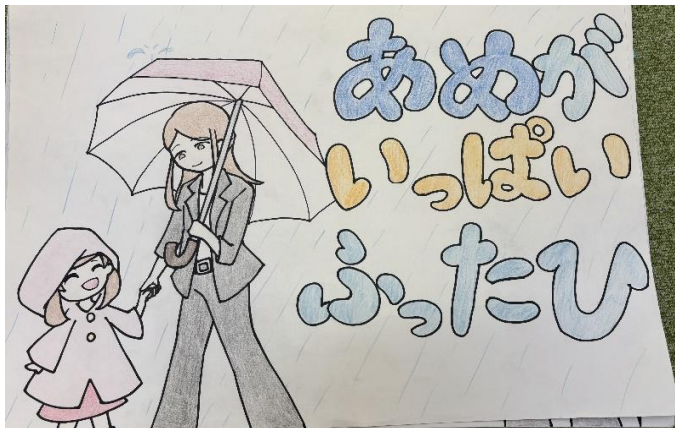


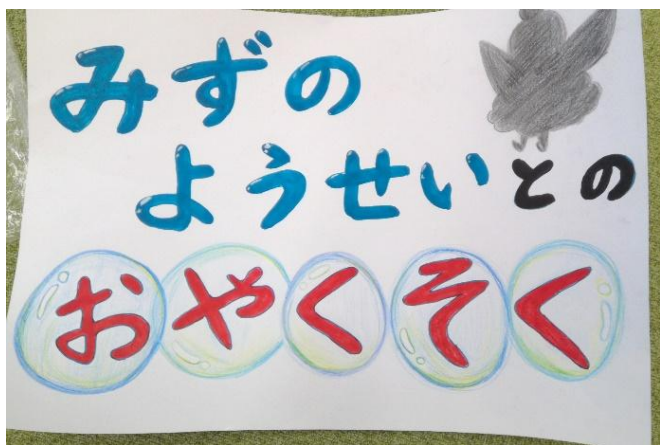
A グループ：「あめがいっぱいふったひ」

洪水を題材に、幼稚園児が避難の大切さを現実感をもって学べるよう工夫された紙芝居です。ハナちゃんとヒロくんが登園中に洪水の危険を知らせる放送を聞き、2階に避難するストーリーを通して、「お・は・し・も」の行動原則を子ども同士の自然なやりとりの中で伝えています。特徴的なのは、「お・は・し・も」を守れなかった場合にどうなるかも描くことで、災害の怖さや避難の重要性をより実感できるようにしている点です。また、各ページに大きく文字を配置し、洪水場面では色や背景を工夫するなど、視覚的に記憶に残るよう配慮されています。物語の最後には「おうちの人にも伝えてね」と呼びかけ、学んだことを身近な人に伝える姿勢を育むこともねらいとしています。



B グループ：「みずのようせいとおやくそく」

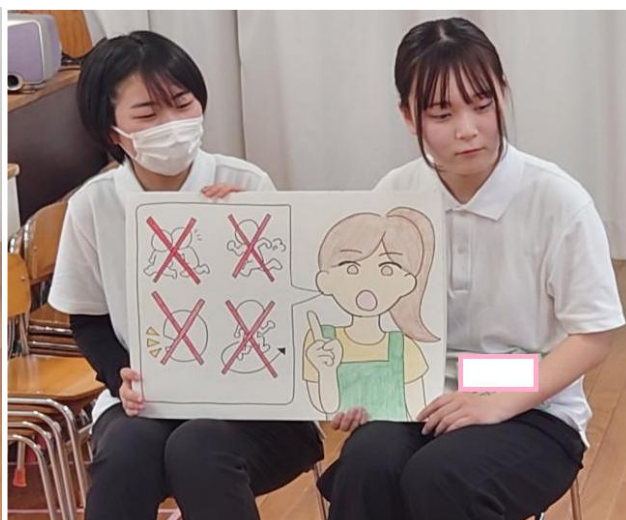
洪水を題材に、「お・は・し・も」の避難行動を楽しく学べるよう工夫された紙芝居です。こうくん・ちいちゃん・けんくんの3人が、洪水警報をきっかけに避難行動をとるストーリーになっています。物語では○×クイズ形式を取り入れ、妖精キャラクターやペープサートを活用することで、子どもたちが参加しながら学べる構成となっています。演出面では、絵の色を濃く塗る、表情を場面ごとに変える、絵柄の統一感を保つなど、集中しやすい工夫がされています。さらに、学生が登場人物のセリフを分担して演じたことで、演劇的な要素が加わり、臨場感のある語りが実現しました。「おはしも」は、ただ教えるのではなく、「知ってる!」「考えたい!」という子どもの気持ちを引き出す形で表現されており、防災意識の定着をねらった内容となっています。



紙芝居の読み聞かせ場面の一部（双方とも幼児の学びや考えを創発させる多様な手段を用いています）

A グループ：「あめがいっぱいふったひ」

紙芝居中の読み聞かせ場面



【実践を通しての学びや課題：一部抜粋】

- ・多くの子どもたちが「おはしも」についてよく理解しており、問いかけの前から発言したり、積極的にリアクションを示す場面が見られた。
- ・クイズ形式など、子どもが考えたり答えたりする機会を増やす構成が効果的であると実感した。
- ・子どもたちが話しかけてきた言葉にうまく反応できなかったり、応答が単調になってしまったことから、やりとりの幅や柔軟な対応の重要性に気づいた。
- ・終了の区切りが曖昧で、子どもが切り替えられないまま話が続いてしまったという反省が複数見られた。

B グループ：「みずのようせいとおやくそく？」

紙芝居中の読み聞かせ場面



【実践を通しての学びや課題：一部抜粋】

- ・〇×クイズ形式を取り入れたことで、子どもたちは楽しみながら避難行動「おはしも」について再確認し、主体的に参加する様子が見られた。
 - ・「楽しみながら学ぶ」という目標はおおむね達成され、子どもたちは正解発表に拍手をしたり、発言を積極的に行うなど、興味関心をもって取り組んでいた。
 - ・子どもたちには既に避難の基本知識が備わっており、それが確認できる機会にもなった
- 問題がやや簡単で、既習の内容が多かったため、子どもが「考える」時間を持てるようなクイズ内容への工夫が必要。